

今日のトピック

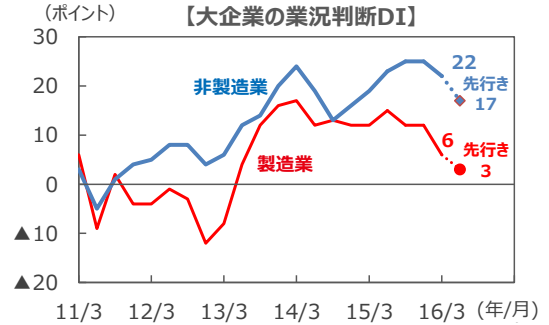
日銀短観と市場動向

大企業の景況感は悪化、政策前倒しの可能性も

ポイント1 景況感は悪化

製造業、非製造業ともに悪化

■1日発表の1月～3月調査の「日銀短観」によると、大企業・製造業の「業況判断DI」（最近）は+6と前期より▲6、同じく非製造業が+22で同▲3の悪化となりました。市場（Bloomberg集計）を上回る悪化でした。新興国の景気が停滞したことや急激な円高が進んだことが主要因です。大企業の「先行き」の景況感も、製造業、非製造業ともに一段の悪化を見込んでいます。



(注)データは2011年3月～2016年6月(四半期)。2016年3月までは業況判断DI(最近)、2016年6月は3月時点の先行きDI。  
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 2016年度は減益見通し

想定為替レートは楽観的

■16年度の経常利益計画は慎重なものとなりました。また、設備投資計画は、大企業・全産業ベースで▲0.9%とマイナスからのスタートとなりました。設備投資計画は時点が進むにつれて上方修正される傾向があります。今回の計画はほぼ例年並みで、設備投資に対するスタンスは悪化しているわけではないようです。

■一方、想定為替レートが117円台と比較的楽観的で、足元の水準との差が浮き彫りになりました。今後想定為替レートが下方修正される可能性もあり、回復基調にある収益への影響が懸念されます。

【大企業・全産業の売上高、経常利益、設備投資額】

(前年度比、前年同期比%)	2016年度		
	計画	上期	下期
売上高	▲0.4	▲0.8	▲0.1
経常利益	▲2.0	▲7.2	4.7
設備投資額	▲0.9	10.7	▲9.2

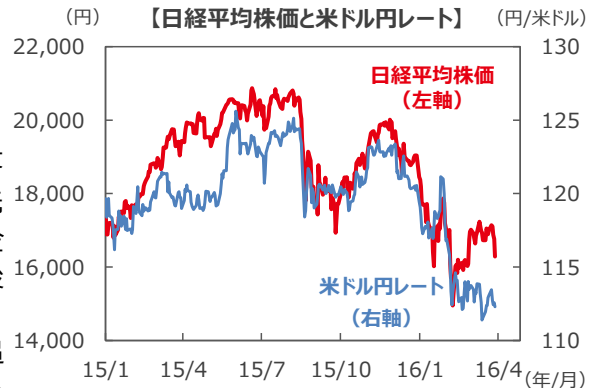
【大企業・製造業の想定為替レート】

(円/米ドル)	2016年度		
		上期	下期
米ドル円レート	117.46	117.45	117.46

(出所)「日銀短観」を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政策前倒しの可能性も

■株式市場は前場で前日比500円を超す大幅な下落となりました。為替に影響を受けやすい企業業績の先行きに懸念が広がったことなどが背景にありそうです。企業の景況感や企業収益の見通しが悪化すれば、今後の設備投資など国内景気に影響を与えかねません。日銀及び政府は、そうした事態を未然に防ぐためにも、追加金融緩和の前倒し等を含む対策の実行を早めざるを得なくなる可能性があります。



(注)データは2015年1月5日～2016年4月1日。4月1日は午前中。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年 3月31日 「日銀短観」の目のつけどころ (日本)  
2016年 3月 8日 日本の主要企業の業績見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。